

2021年度 県勢展望

県勢特集 2021

本県再生 新局面へ

魅力と可能性 広く発信

■第2期復興・創生期間

政府は新年度から2025年度の5年間で「第2期復興・創生期間」と位置付け、被災者支援や住宅再建、原子力災害からの復興・再生など約1兆6千億円の復興財源の枠組みを決めた。

それに伴い、県は避難指示が出た12市町村への移住・定住を促進する事業費などを盛り込んだ新年度の当初予算案を可決。震災から10年の節目を迎えた新年度、本県の復興は新たなステージに入る。

第2期復興・創生期間のスタートを間近に控え、内堀知事は福島民友新聞社の新春インタビューで「新年度は本県が転機を迎える1年になる」と答えた。避難住民の帰還環境の整備や地域産業の再生などの課題解決に向けた取り組みを継続する一方、国際教育研究拠点の具体的な復興拠点外における対応などの新たな課題と向き合う必要がある。

その機運を高めるためにも、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で今夏に延期された東京五輪・パラリンピックにかかると期待は大きい。福島市で行われる野球・ソフトボール競技などを通して「震災・原発事故」と「新型コロナウイルス感染症」からの復興を同時に国内外に発信し、本県の新たな歩みに弾みをつけたい。

「復興の加速と地方創生の推進への契機を逃さず、福島の魅力と可能性を広く発信したい」と抱負を述べた内堀知事。本県の新たなチャレンジが始まる。



「今年は復興の加速と地方創生の大きな二つの契機に当たる年」と話す内堀知事＝1月

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から10年を機に、新スローガン「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」を策定した本県。現在も3万5千人超の県民が避難生活を送り、帰還困難区域の大半は避難指示の解除が見通せない状況が続く。新型コロナウイルス感染症拡大への対応をはじめとした課題も山積しており、これらの解決を一つずつ実現していくことが本県の復興・創生につながる。7年間にわたるかじ取り役を務めてきた内堀雅知事の手腕が問われる2021年度を展望する。

「創造的復興」担う

■国際教育研究拠点

「福島創造的復興」につながる取り組みとして、政府が浜通りに新設する「国際教育研究拠点」。県が推進する「福島イノベーション・コースト構想」を具体化する司令塔としての役割が期待される。

同拠点は、昨年開所した福島ロボットテストフィールド（南相馬市）をはじめとした各施設の連携強化や新産業集積、人材育成を担う。23、24年度ごろの開所を目標に基本構想の策定が行われている。

内堀知事は、これまでに整備した復興関連施設の運用を点から線、線から面へと広げる上で、同拠点の重要性を指摘。「浜通りの地域の再生を加速させる新たなエンジン」として整備したい」と今後を見据える。県は国の検討状況も踏まえ、各市町村の意向を聞いた上で立地場所を提案する。



昨年開所した福島ロボットテストフィールドの研究棟＝南相馬市

感染防止と経済回復を両立

全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症は、県民の生活も一変させた。県は検査・医療体制の充実強化や「3密」回避をはじめとした「新しい生活様式」の啓発などに取り組んでいるほか、医療従事者向けのワクチン優先接種などの感染防止対策を進めている。これまでの県内の感染確認は計●●人、死者計●●人（3月26日現在）。

時短営業や会食、移動の自粛などの影響で、宿泊施設や飲食店など各業種で苦境が続いている。

■新型コロナウイルス対策

感染予防に加え、地域経済再生に向けた取り組みも重要だ。県は独自の宿泊割引や実質無利子型の特別資金などの支援を進めている。今後、中小企業の現状と課題を把握した上での具体的な振興策が求められる。

また、コロナ禍を契機に多様な働き方と地方に対する関心が高まっている。テレワークやワーケーションの受け入れ環境整備を進めることが、本県に新たな人の流れを呼び込むための鍵となりそうだ。

黒板に描く 10年後のふるさと

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

いわき総合高 美術部 「希望の波」

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

福島西高 デザイン科学科 「FORWARD～前へ～」

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

会津学風高 美術部 「奥会津に響く子供たちの声」

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

内堀知事コメント

無常感が生む美しさ

画材となるチョークが数カ月で黒板から剥離(はくり)してしまうため、黒板アートは油絵や彫刻のように長期保存ができません。また、黒板アートの多くは次の作品に取り掛かるタイミングで消してしまいます。描き出された現物の作品が、ほんのひとときしか存在しない。その「無常感」が、黒板アートのひとときを美しく感じさせているのだと思います。

いわき総合高の「希望の波」は、桜と電車、そして元気に飛び跳ねる魚という大胆な組み合わせに驚きました。画面いっぱい描かれた電車と魚から、前に進む力強さと躍動感を感じます。

福島西高の「FORWARD～前へ～」に描かれた一人の女性が成長を遂げていく姿は、復興を進める私たち福島県民と重なるものがあります。早るし難く、力強く未来を見つめるようなまなざしが、とても印象的です。

会津学風高の「奥会津に響く子供たちの声」は、たくさんの子供たちが遊ぶ姿とお母さんの笑顔が、福島を明るく未来を想像させてくれます。色付いた大イチョウなど、奥会津の穏やかな秋の一日が目に浮かぶようです。

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】

慣れ親しんだ風景、そこに住む人々の笑顔。県内の高校生たちが黒板に描き出した「10年後のふるさと」には、希望に満ちた色とりどりの世界が広がっている。制作を担当した3校の生徒たちが、作品に込めた思いを紹介する。

【学年は2020年度、作品は1面に掲載】